

氏名（本籍）	田中 和子（山口県）
報告番号	甲第21号
学位の種類	博士（健康福祉学）
学位記番号	健康福祉博甲第21号
学位授与年月日	2019（平成31）年3月20日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当（課程博士）
学位論文題名	開発途上国の周産期ケアを改善する 新たな支援策開発のための基盤的調査研究
論文審査委員	主査 教授 吉村 耕一 副査 教授 田中 マキ子 副査 教授 内田 耕一

論 文 要 旨

開発途上国における妊産婦の健康改善は、国連の持続可能な開発目標を達成する上で重要な課題である。インドネシアの妊産婦死亡率は、過去25年間で改善しているものの、依然として高い状態が続いている。インドネシアの妊産婦の健康改善のためには、妊産婦自身が妊娠・出産に主体的に取り組むよう意識改革をし、さらに、現地助産師などの医療従事者が妊産婦主体のケアを考えるよう意識・行動変容することが、有効な解決策になり得ると着想した。将来的には、妊産婦主体のケアシステムを現地の事情に即した形で導入することを目指す。

第1章では、インドネシアにおける周産期ケアの現状と問題点を明らかにすることが、本研究の目的であると述べた。さらに本研究の意義として、開発途上国の周産期ケアの問題点とその原因を明らかにし、妊産婦主体のケアシステムを現地の事情に即した形で導入するためのフレームワークを提言できれば、開発途上国における安全度・満足度の高い周産期看護ケアの実現に繋がることを示した。

第2章では、インドネシアの妊産婦保健の現状と健康改善に関する戦略について、国際機関及びインドネシアの統計データと本邦を中心にした文献から概観した。インドネシアは、2015年までに妊産婦死亡率を102（出生10万対）にするというミレニアム開発目標の5.Aを達成できなかった。インドネシアは母子保健を優先課題とし、コミュニティを巻き込んだプログラムを展開しているが、顕著な効果はみられていなかった。

第3章では、インドネシアの妊産婦と新生児の健康に関する英語論文を分析し、現状と課題

を整理した。インドネシアでは、専門技能者によるケアの必要性に関する妊産婦の認知度が低い上、費用負担の経済的問題、都市部と農村部の地域格差と伝統的産婆に頼る慣習が妊産婦に大きく影響していた。社会的・経済的問題や地理的要因と、さらに伝統的慣習を踏まえた対策が望まれることが示唆された。

第4章では、インドネシアにおいて周産期の女性がどのような体験をしているのかを明らかにするために、インドネシア、バリ州の在留邦人女性を対象として、インタビュー調査を行った。邦人女性は先進国と開発途上国を比較できるため、現地女性と異なる視点から問題点を抽出することが期待された。女性たちは、周産期を通じて情報入手の難しさなどの様々な困難を抱えており、自分たちの出産体験が女性中心でないととらえ、失望していることが示された。女性たちは、看護師および助産師の寄り添いや励ましを求めている。本調査結果から、周産期における女性中心のケアとエンパワメントの必要性が示唆された。

第5章では、インドネシアの妊産婦の健康改善のために助産師などの医療従事者は、妊産婦を尊重し、パートナーシップを組み、協働する取り組みが必要であることを論じた。医療従事者が妊産婦の選択を尊重し、妊産婦が自身の妊娠出産に向き合い、出産に向けて主体的に取り組むためのシステムの構築が必要であると結論づける。

Abstract

The basic research for development of assistance measures to improve perinatal care in developing countries

Improvement of maternal health in developing countries is an important issue in achieving the United Nation's Sustainable Development Goals. The maternal mortality rate in Indonesia has improved in the past 25 years, but it remains high. In order to improve maternal health in Indonesia, it is necessary to enhance awareness so that women themselves proactively take the task for childbirth. In the future, the researcher intends to introduce a new women-centered perinatal care system in an appropriate form to suit local circumstances.

In chapter 1, the purpose of this research study was described to clarify the present situation and problems of perinatal care in Indonesia. Through building of a framework to introduce women-centered care system suitable for local circumstances, this study may lead to the achievement of secure and highly satisfactory perinatal care in developing countries.

In chapter 2, the researcher examined the government strategy to improve maternal health in Indonesia using statistical data and previous reports, and has reviewed the current situation of maternal health in Indonesia. Indonesia could not achieve the Millennium Development Goal 5. A target of maternal mortality of 102 by 2015. The Indonesian government has conducted a community-based program to reduce maternal mortality, but it remains unclear whether the program will be effective in improving maternal health in Indonesia.

In chapter 3, the researcher reviewed the current situation and problems of maternal and newborn health. In Indonesia, awareness of the need of professional care is lacking. In addition, the burden of expenses, regional differences between urban areas and rural areas and the local customs, which rely on traditional birth attendants, greatly affected maternal health. Based on socio-economic factors, distance and transportation to health facilities and traditional practices, measures are necessary for improving the maternal and newborn health.

In chapter 4, to examine how women experienced perinatal care in Indonesia, the researchers conducted an interview survey on Japanese women living in Bali, Indonesia. As the Japanese women can compare perinatal care in Japan with that of Indonesia, they were expected to bring a different perspective from local Balinese women. During the perinatal period, the women had various concerns regarding issues such as difficulty in obtaining information. In many situations, they were disappointed with their childbirth experiences as they felt that the care provided was not woman-centered. They were seeking close attention and encouragement from nurses and midwives. These suggest a need for woman-centered mental care and empowerment of women during the perinatal period.

In chapter 5, health professionals such as midwives need an approach which respects and establishes a solid partnership with women in order to improve maternal health in Indonesia. The researcher concluded that a system for health professionals that respect women's choices and for women to face and deal with their own pregnancy and delivery should be established.

審 査 結 果

本論文は、インドネシアにおける周産期ケアの現状と問題点の解明を目的とした基盤的な調査研究であり、開発途上国の健康改善への貢献を目指すものである。第1章：序論、第2章：各種統計データと本邦文献の分析、第3章：海外英文文献の分析、第4章：現地におけるインタビュー調査、第5章：総括、の全5章から構成されていた。

博士論文の審査基準に照らして、本論文を評価した。

1. 副論文の作成：本論文の副論文として、査読付論文1編（田中和子単著. 母性衛生 57(4) : 702-8, 2017)を確認した。

2. 研究課題の明確化：妊産婦の健康に関する世界情勢と研究動向を踏まえ、本研究の目的がその意義とともに明確かつ具体的に述べられていた。

3. 先行研究の適切な検討：目的達成に必要な既知の情報収集が多面的になされており、第2章と第3章にまとめられていた。

4. 研究方法の適切な選択と実施：目的達成のために、既知の情報収集とその分析（第2章、第3章）並びに現地在住の邦人妊産婦への実地調査とその分析（第4章）からなる研究方法が、概ね適切にバランス良く計画・実施されていた。

5. 新たな知見の提示と学問の発展への貢献：本研究の分析結果から、目的に対応した独自の新知見がまとめられていた。特に、行政や医療者側主体ではなく、妊産婦主体のしくみの必要性を提示している点は独自性が高く、学術領域と社会に貢献できる内容と評価できる。

6. 文章作成能力：論文全体の体裁並びに文章の表現は、概ね整っていた。

最終試験では、出産経験別の調査結果の研究全体における位置づけ、今後の研究の展開等に関する質問に対して、適切な回答が得られた。

以上の所見を総合して、上記の者は博士論文審査及び最終試験に合格したものと認める。